工業部会通信

（発行）
かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館１階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞 KANAKEI

松岡副部会長インタビュー

部会の「過去と未来」

コロナ禍によりイベントが相次ぎで中止となる中でも、工業部会の活動はオンラインを中心に活発化している。工業部会は、ＧＥＴ、ＴＲＹ、ＫＩＺＵＮＡの３プロジェクトに加え、下部組織に近未来技術研究会と相模原市青年工業経営研究会（青工研）を抱えており、それぞれが独自に活動し、市内工業の活性化に一役買っている。こうした中、今回は本紙創刊111号記念として、３プロジェクトや近未来技術研究会の発起人であり、長く部会活動に携わっている松岡康彦副部会長（湘南デザインＣＥＯ）に「工業部会の過去と未来」についてインタビューした。

111号記念

３プロジェクトや近未来技術研「活動内容、全国誇れる」

《近未来技術研究会など、工業部会の現体制を企画しました》

「きかっけは、私がまだ30代だったときですとで、学生時代と同じように、何でも話せる仲間ができました」

「しかしながら、青工研は42歳で卒業してしまいます。卒業後は仲間たちと接点を持つ機会が少なくなりました。確かに、青工研は経営の勉強をしますが、私たち製造業者は、技術の勉強もしなければなりません。そこで、当時部会でも重鎮だった小俣邦正氏（昭和真空社長）らとともに、近未来技術研究会を設立しました。今から20年以上も前の話です」

《３プロジェクト設立の経緯は》

「今のような３プロジェクトになる前に、部会内に『新成長ビジネスＧＥＴプロジェクト』を立ち上げていました。最新技術や、これから普及するであろう技術に触れながら、それらを体感し、学ぼうというプロジェクトです。やがて目的別にプロジェクトを編成することになり、現在の３プロジェクトの形となりました。ＧＥＴは主に講演、ＴＲＹは視察、ＫＩＺＵＮＡは交流を目的としています。そして、全国の商工会議所でも初となる電子新聞による広報紙『工業部会通信』も創刊し、部会活動や会員情報を発信しています。広報紙まで持っている部会は、おそらく全国的にも少ないのではないでしょうか。私たち工業部会の活動は、全国でも誇れるものだと思います」

《これから力を入れたいことは何でしょうか》

「現在、ものすごい勢いで技術革新が進んでいます。コロナ禍でオンライン化も一気に進みました。昔なら『テレビ電話』なんて考えられないことでしたが、今やビジネスでもオンラインが当たり前になりました」

「一方で、産業界を見渡すと、すそ野が広い自動車産業が大きな転換期を迎えています。エンジンがなくなる時代がすぐに来ています。ひょっとしたら、自動運転が進み、ハンドルさえなくなる時代もすぐかもしれません。そうなったら、産業構造は一気に変わります。私たち経営者は、常に時代の先を読んで判断することを迫られています。判断ミスは許されません。そのため、今後の部会活動は、デジタル化のみならず、これからの自動車やその関連技術にスポットを当てていきたいです」

《今後、何か新しいことは考えているのでしょうか》

「現体制でできることは、まだまだあります。ただ、講演や視察なども非常に勉強になりますが、講師や視察先企業からの一方的な情報発信にとどまっています。そのため、会員同士で何か議論をしたり、意見を出しあえるたりする場も提供できればと考えています」

ＧＥＴプロ

販路開拓力セミナー開催

人気講師招きオンラインで

工業部会ＧＥＴプロジェクトは３月24日の午後３時15分～同４時45分まで、オンラインで経営セミナー「ポストコロナ時代に自社が選ばれ続けるための販路開拓力セミナー」を開催する。

講師にはスプラム代表取締役で中小企業診断士の竹内幸次氏を招く。参加無料（ただし部会会員限定）。

同セミナーでは、第一部の「基本編」と第二部の「応用編」で構成。基本編では▽販路開拓の基礎（顧客ニーズ、目的整理、キーワード、競合比較での優位性など）▽伝える力の重要性（対面、非対面、ホームページ）などを解説する。

第２部ではオンライン活用編として、オンライン商談会の出展や営業のポイント、オンラインツールを活用した企業事例紹介などを紹介していく。

竹内氏はこれまで２６００社以上の中小企業へのコンサルティングと２４００回超の講演実績があり、具体的で現実的な経営コンサルティングを得意としており、講演は「プロ中のプロ」と評判という。

災害段ボールベッド共同開発

東鈴紙器と市消防局

東鈴紙器（中央区小町通）は、同社で製造販売する「緊急災害段ボールベッド」で、相模原市消防局とコラボレーションした新製品を開発した＝写真。大規模災害の発生時に、避難所などでの利用を想定。わずか10分程度で組み立てられる使い捨てベッドだ。

今回開発した市消防局とのコラボ製品では、段ボールに２次元コードを印刷。スマートフォンなどで読み込むと、避難所において「いざという時」に必要となる心肺蘇生の方法や、消火器の使い方などの情報が入手できる。

同社マスコットキャラクター「トレリン」と市のマスコットキャラクター「さがみん」がベッドの土台部分に印刷されており、キャラクターの可愛らしさで避難生活時に心が安らげるような工夫も施された。

鈴木和弥社長は「本来なら使用しないのが一番ですが、もしもの場合に必要になります。いざ災害が発生してからでは遅く、備えあれば憂いなしです」と話している。価格は３９８０円（税別）。

新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会